

## 第39回山口県消費者大会

山口県消費者団体連絡協議会

12月2日、山口市において210名が参加し、「みんなが心豊かに安心してくらせる社会に！」をテーマに、第39回山口県消費者大会が開催されました。

県消団連代表幹事の中野リ子より、今年県内で起きた災害を教訓に防災学習や訓練に取り組むこと、悪質な詐欺にあわないよう消費者力を高めることが必要と開催のあいさつがありました。

県消費生活センター田中俊彦所長より、昨年の県の相談は4,903件で9年連続減少しており、市町の相談件数は増加の傾向にある事、相談内容は契約・解約に関するものや販売方法に関するものが多く、振込め詐欺は増加、また健康食品の送りつけも増加している等の説明をされました。

記念講演は、「ダイヤモンド買え買え！短歌俳句すばらしい！～手口と対策～」と題し、弁護士の沼田幸雄氏に講演していただきました。「私は大丈夫」と思っている人でも巧妙な手口に騙されてしまいます。特に高齢者が被害にあう事が多く、被害額を取り戻すことは難しいそうです。被害にあう前に相談する、成年後見制度の利用などで、支払わない対策も有効です。



また、短歌や俳句を新聞等に掲載されると、「すばらしい作品なので、ぜひうちの雑誌に」「掲載料を払えば雑誌に掲載しますよ」と甘い電話がかかり、掲載料を請求されるなど、一見すると詐欺と分かりにくい事例もあります。人は褒められると冷静な判断が難しくなるので、注意が必要です。被害にあった請求先がはっきりしている時は、少額訴訟制度の利用も有効な手段です。詐欺被害にあわないように冷静な判断を心がけることが大切です。

基調報告では、今年で12回目になる山口県消費者行政調査の、県内13市町の今年度の取り組みや相談件数などを報告しました。また他団体と一緒に行政訪問し、担当職員や相談員から直接実情を聞き、消費者教育推進計画の策定、相談窓口の充実等を県要請へ繋げました。今年度は2市から市長も出席されました。



寸劇では、「注文していない健康食品が送られてきた！」「東京オリンピックを悪用した詐欺！」を山口弁で楽しく伝え、少しでも不安を感じたら、近くの窓口相談することを伝えました。

最後に大会アピールで、東日本へ支援の継続と省エネ行動への取り組み、自立した消費者を目指すこと、私たちをとりまくさまざまな問題に対して、一人ひとりの力を結集して、みんなが安心してくらせる社会の実現に向けて、みんなで知恵を出し、力を合わせて行くことを確認しました。